

『颯と流』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

- (1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。
- (2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。

子どもたちの教育は地域全体で担う!!

南都留地域教育推進連絡協議会 理事会・総会・講演会開催

南都留地域教育推進連絡協議会では、平成29年度の理事会・総会・講演会を6月21日(水)「山梨県立富士ふれあいセンター」において開催しました。理事会後に開かれた総会・講演会には約130名が出席。総会では、昨年度の事業報告・会計報告・監査報告の後、本年度の役員について、野木忠一東桂小学校校長を会長とする新役員が承認されました。また、本年度の事業計画・予算についての審議の中で、参加者から「今年度11月2日に開催される地域教育フォーラムは、20回目となる。本年度も、各種団体が子どもたちのために実践してきたことを提案しあう場にしていきたい。」「小学生が防災訓練を、地域の方たちと一緒にやる事で、防災意識が高まるとともに、考えて行動することなどを学ぶ事ができた。これからも地域との連携をとおして、子どもたちの育成にあたっていきたい。」など、多くの意見が出されました。



講演会では、富士山アウトドアミュージアムの舟津宏昭氏を講師に『たくさん見つけて ていねいに調べて 大切にまもり続けて めいっぱい楽しむ!—富士山はまるっとぜんぶが博物館—』と題してご講演いただきました。舟津氏は富士山を構成するすべての要素を博物館資料としてとらえ、その価値が損なわれないようにと、富士山のゴミ拾いや野生動物の交通事故死調査など、地域の方と連携して自然環境を守っていく活動を行っていること。地域の子供たちが遊びながら富士山や地元に興味を持ち、好きになってくれたらと「富士山の森が小学校」という活動を行っていることなどを話されました。



参加者からは「富士山で学んだことが、日常の場にも広がっていきけるような気がして、とてもよい活動だと思いました。」「富士山の素晴らしさをもう一度再確認できた。」など多くの感想が聞かれました。

「まちづくりは人づくり、地域の子どもは地域で育てる」 地域教育「明日の風」

北都留地域教育推進連絡協議会 定期総会・教育講演会



北都留地域教育推進連絡協議会では、7月7日(金)に定期総会・教育講演会を上野原市文化ホール(会議室)で開催しました。総会に先立ち、歓迎アトラクションでは、「日本大学明誠高校・自然科学部」によるロボット実演が披露されました。自然科学部は、日本大学理工学部精密機械工学科が主催の大会(日本大学の付属校や千葉県の高校が参加)で昨年度は4種目で優勝しました。

ロボットはパーツの設計から動作プログラムまで生徒達を中心となって製作しました。参加者からロボットの様々な動きに拍手がおくられました。

総会では、昨年度の事業報告、会計決算報告・会計監査報告に続き、役員選出が行われました。会長を石井由己雄大月市長とする役員を選出。今年度の新体制がスタートしました。平成29年度の事業計画案および会計予算案では、「まちづくりは人づくり、地域の子どもは地域で育てる」のスローガンのもと、北都留地域の各種団体・行政、地域住民との連携を図り「望ましい環境づくり」を推進する多くの事業を可決しました。また、「明日の風」の設立の目的や2020年に向けての取り組みなどが提言され確認されました。

教育講演会ではNPO法人フードバンク山梨理事長 米山けい子氏を講師にお招きして、「フードバンク活動から見える 子どもの貧困対策～今、私たちにできること～」と題してご講演いただきました。米山氏からは、学校と親という関係だけでは解決が難しい子どもの貧困問題に、NPO・市民・企業・行政が連携をして、困ったときには誰もが支援を受けられる環境作りや、『賛同から参加へ』と呼びかけを行っているなどのお話をいただきました。

参加者からは「様々な支援を必要としている子どもたちが、たくさんいる状況をどのように改善していくのか、対策を考えていかなければならないと感じました。」「賛同から参加へ。できることからやっていききたいと思います。」などの感想がよせられました。



高校生インターンシップ推進事業 富士・東部地区 地域連絡会議

5月24日(水)、山梨県総合教育センターにおいて、平成29年度高校生インターンシップ推進事業地域連絡会議が行われました。

全体会では、インターンシップの昨年度の状況や本年度の事業計画、高校新卒者の就職内定率・求人状況等の説明の後、山梨労働局の担当の方からは、「在学中のインターンシップを通じた職業意識の向上が、高卒・大卒の離職率の減少につながるので各関係機関との連携をしてほしい。受入企業の開拓には山梨労働局HP(若者雇用促進総合サイト)も活用して下さい。」との説明がありました。

富士・東部地区の地域連絡会議では、進路指導主事・インターンシップ担当者による各校の実践状況が発表されました。各学校の特色に応じた体験活動の状況やインターンシップの実施に向けた学校での事前・事後指導の取り組み、新規受け入れ企業の開拓における課題や、看護体験・医師体験の実施状況など活発な意見交換が行われました。ハローワーク富士吉田の渡邊亜矢子学卒ジョブサポーターからは、「先日の企業向け学卒求人の説明会は、参加が昨年同様に増加し、企業は新卒採用の意欲が高い。インターンシップは、働くことの意義を知る上で重要。ハローワークは事前学習におけるマナー指導等の協力をします。」とのアドバイスをいただきました。



富士吉田地区小中高連携連絡会議・養護教員部会



富士吉田地区小中高連携連絡会議は、小中高の連携において課題となっている「小1プロブレム」「中1ギャップ」や「中高の連携した生徒理解」等の様々な問題を打開するために平成20年に発足。今年で10年目を迎えます。また、平成22年より養護教員部会を立ち上げ、「不適応の児童・生徒の現状と対応について」をテーマに小中高の連携を深めてきました。

4月27日(木)、下吉田コミュニティーセンターにおいて富士吉田市立教育研修所長、各小中高の校長、教育事務所地域支援スタッフが出席し、『富士吉田地区小中高連携連絡会議』が開催されました。連絡会議では、富士吉田市教育委員会教育長からご挨拶を頂いた後、昨年度の報告と今年度の方向性についての検討、および小中高連携に関わる意見交換が行われました。本年度も養護教員部会を継続して開催し、年間2回の情報交換を行うことを決定しました。また、各校から異校種間交流の取り組みや各校が抱えている課題について、率直な意見交換がなされました。6月13日(火)には、22名が参加して第1回養護教員部会が開催されました。始めに、今年度は小中高の情報交換を中心として行っていくことが確認されました。この後、各校から児童生徒の現状についての課題や取り組みについての発表があり、情報交換が活発に行われました。参加者からは「進学してからの児童生徒の様子を知ることができて有意義であった」という感想が聞かれました。第2回は平成30年3月15日(木)に開催の予定です。



子育て支援リーダー実力アップ講座

地域での子育てや家庭教育支援の活動を

積極的に推進できる人材の養成！！



県では、山梨県立大学との協働により地域の子育てネットワークづくりのための子育て支援リーダー実力アップ講座を開講しています。同講座では、年間10回の講座を計画。支援者同士のネットワークづくりや情報交換などとともに、相談業務、特別支援教育など、県内外の著名な講師からも、多様な支援に対応した最新の理論やスキルを学ぶことができます。

第1回、第2回は、6月2日(金)と6月30日(金)に県立大学で開催され、子育て支援関係者、保育士、児童委員等約36名が参加しました。

第1回目は、開講式が開催され、引き続き、オリエンテーションが行われました。その後、「子育て支援の現在と私たちの課題」というテーマのもと、子育て支援をしていく上での課題を講座やグループワークを通して考え、解決方法を探究しました。今、抱えている課題についてそれぞれの立場からの意見交換が活発に行われ、グループごとに課題を絞り込み、代表による発表を行いました。

第2回目は、「家庭教育支援の技術をみがく」というテーマで講義とワークショップが行われました。「親子で楽しく身体表現遊びー心・ふれあう・動きでコミュニケーションー」では、実際に身体を動かし体感しながら、心身の発育発達を促す遊びの理論と技術を学習しました。参加者は童心に返って自ら楽しむとともに、具体的な実践例を身につけることが出来たようでした。



明日の風 アスリート実技講習会!!



「明日の風」アスリートクラブ・北都留地域教育推進連絡協議会主催「明日の風アスリート実技講習会」が、今年度もスタートしました。今年は、年間7回の講習会を予定しています。第1回は5月13日(土)に大月市勤労センター体育館で開催されました。小学2年生から中学3年生までの86名が参加しました。ウォーミングアップ後、体力測定を5種目実施。参加者は指導者のアドバイスを熱心に聞きながら測定に取り組みました。また、最後に交流リレーも行われ他学年や他校のみなさんとの交流を深めました。

また、6月24日(土)には大月市民総合体育館において、『ホップ』(主催：大月アスリートクラブ・明日の風アスリートクラブ)が開催され、小学生から大人まで、合計178名が参加しました。種目は、ドイツ生まれの横断的な子供用ボールゲームのバルシューレやトランポリン・スポーツ吹き矢・ストラックアウト・陸上5種競技・スーパーエアロピクス教室と多種多様で、参加者は思い思いの種目にチャレンジし、親子や友達同士で競い合い、自分の記録を確かめていました。さわやかな汗を流しながら楽しい一日を過ごしました。

今後の開催は10月7日(土)、10月14日(土)、11月11日(土)です。多くの方のご参加をお待ちしています。



鳥沢小学校 校外活動で大月短期大学と連携活動!

大学訪問で発見 「ふるさと教育」 「キャリア教育」

6月9日(金)、鳥沢小学校の3年生が今年の3月に新校舎に建て替えられたばかりの大月短期大学を見学しました。正門をくぐり左手のイチョウ並木道を進むとそこが新校舎です。板張りの外壁と薄緑色のアーチ状をした屋根が周りを取り囲む山々の景観ととてもマッチしています。学生玄関前では、今回の見学の案内役を務めていただく総務担当リーダーの井貝さんが子どもたちを待ち受けていました。



あいさつをしたあと、いよいよ見学開始です。玄関はなんと自動ドアでした。エントランスホールに入るやいなや、爽やかな木の香りが鼻をくすぐります。校舎は木造2階建てになっていて、玄関や廊下、階段はもちろん、各教室や図書室、岩殿ホール、ラウンジの床や腰壁など、いたるところに木材が使われていました。

また、同じフロアでも使用材の種類を変えることによって通路とラウンジの区分けをする工夫や、先ほどの玄関の自動ドアやトイレのセンサーライト、明かり調節の可動式ルーバー、閉架書庫のハンドル式移動ラックなどの便利なくみもあちこちにありました。

校舎内の見学を終えると、会議室で施設設備の詳しい説明と子どもたちからの質問に答えていただきました。部材の特性や工法などの説明や4年制大学への編入試験に有利なカリキュラムを備えていることなどの難しいことは理解できなかったようですが、使われている木材が大月市や山梨県の山々から伐り出されていることや、学生たちが北海道から沖縄まで全国各地から集まってきていることに驚いていました。

子どもたちの見学を終えての感想として、木のぬくもりのある、しかもいろいろな工夫が凝らされていた校舎が気に入ったようで、「大きくなったらここで勉強してみたい」という声も聞かれました。まだまだ先の話ですが、高校を卒業したあとの進路を考える際の大きな選択肢の一つになるような気がしました。

もともとは社会科の施設見学としての位置づけでしたが、地元の豊かな森林資源を活用していることや全国からたくさんの学生を引き付ける魅力ある学校が大月にあることを知り、「ふるさと教育」や「キャリア教育」にも通じるとても有意義な活動となりました。

やまびこ支援学校 スポーツフェスティバル



県立やまびこ支援学校(藤川健校長)の「第38回スポーツフェスティバル」が5月27日(土)に開催されました。小学部と中学部の児童・生徒あわせて43名と、保護者および学校関係者が参加して、同校の体育館とグラウンドにおいて実施されました。

はじめの会では、校長先生から「今日は、皆さんの応援をするために沢山の方が来て来ています。練習の成果が発揮できるように頑張りましょう。」と話があり、次に、生徒代表による宣誓が元気よく行われました。引き続き、校内研究の授業づ

くりで考案された、子供たちの実態にあったオリジナルの準備体操を行いました。

午前中は、小学部・中等部のエールの交換の後、各部それぞれの種目発表が行われ、小学部の「打って！蹴って！投げて！ボールで遊ぼう！」では、バットでボールを打ったり、ドリブルやストラックアウトをしたり、それぞれの実態に応じた運動が披露されました。また、中学部の「挑戦～己の壁を越えろ！～」では、全員でダンスを行った後、グループごとにマット・跳び箱・鉄棒や大縄を使ったパフォーマンスなどが披露されました。皆、元気よく最後まであきらめずに、一生懸命取り組んでいました。観客の方々も感動。大きな拍手が送られました。午後の部では、交流種目として、「フォークダンス」「玉入れ」を楽しみ、学年や地域を越えて互いに交流を深めることができました。



ふじざくら支援学校 オープンスクール



県立ふじざくら支援学校(下倉史彦校長)の「オープンスクール」が6月22日(木)に実施されました。地域の方々に日頃の教育活動や生徒の様子を見学していただくために、平成27年度から通常の授業の時間帯の中で行うようになりました。

学校の概要説明では、教育目標である「地域社会の中で豊かにたくましく生きていく力を育てる」ことの具現化をめざし、子どもたちが夢と自信をもって社会に巣立てるよう、職員一丸となって教育活動に取り組んでいることが話されました。

各部の学習内容や「共同及び交流学习」における学校間交流についての説明後、「校内案内」や「授業見学」が行われました。また、特別支援教育に関する専門書やふじざくら支援学校で使用している教科用図書、教材、自助食器等の展示、各学部の作品展示、高等部の修学旅行や校内実習・現場実習の様子も紹介されました。

ふじざくら支援学校では各学部で連携を図り、多様な児童生徒の障害や発達に応じた教育課程を編成し子どもたちに対応しています。また、同校地域支援部では、「教育相談」「授業体験」「訪問支援」「地域支援だより」の発行「専門書の貸し出し」「視覚障害児・聴覚障害児への支援」等の活動を行っています。特別支援教育に関する様々な相談について、お気軽にご連絡ください。連絡先 0555-72-5161(地域支援部)



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。】

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めて参ります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ 0554-45-7841

(公社)富士五湖青年会議所 国際交流活動 !!

富士河口湖高校 ニュージーランド小・中学生訪問団交流



明るい豊かな富士五湖地域をつくることを目的に活動している(公社)富士五湖青年会議所(岡洋介理事長)は、5月30日(火)富士河口湖高校において「ニュージーランド小・中学生訪問団交流」を開催しました。当日は、ニュージーランドからの小・中学生、引率者合わせて19名が来校し、1年生のコミュニケーション英語の授業に参加しました。各グループに分かれて、活発な意見交換が行われました。また、授業の最後にはニュージーランド伝統の「ハカ」(マオリ族の民族舞踊)が披露さ

れ、高校生たちは、その迫りに拍手喝采でした。訪問団は、日本文化の体験の一環として折り鶴作りに挑戦したり、日本の武道を見学したりしました。弓道部では部員による実演の後に、基本動作を教わり実際に矢を射る体験をしました。他にも柔道部・剣道部を見学し、様々な交流活動を通じて楽しいひとときを過ごしました。



(公社)富士五湖青年会議所では、今回の国際交流事業に引き続き、今後もさまざまな事業に取り組んでいく予定です。

山梨県立産業技術短期大学校 小中学生向け出張授業について

産業技術短期大学校は、「ものづくりとホスピタリティ」を教育理念として、機械・電子産業、情報通信業等を支える人材や観光旅行業を担う人材の育成に向けた様々な授業を行っています。

こうした授業を当校教職員が小中学校に出向き実施することにより、「ものづくり」の仕組みや面白さを伝え、小中学生のキャリア教育に役立てていただきたいと考えています。

ご提供できる出張授業等のテーマ例は、次のとおりですが、この他にも御要望に応じて、いろいろ検討させていただきます。



平成29年度 小学校向け出張ものづくり 体験 一覧		
種目名	内 容	定員
工作	ペットボトルけん玉	10～30名程度
工作	ペットボトル空気砲	10～30名程度
機械	直流モータの製作	10～30名程度
工作	ブーメランの製作	10～30名程度
電子工作	人感センサ付きLEDキャンドルを作ってみよう	5～15名程度

平成29年度 小中学校向け出張 授業 一覧		
教科等	内 容	可能日
理科(機械)	金属をくっつける【小学校高学年向き】	連絡後調整
理科(機械)	機械の部品のつくりかた【小学校高学年向き】	連絡後調整
理科(機械)	吹き矢の仕組み【小学校中学年向き】	連絡後調整
理科(機械)	ものの形を伝える【小学校高学年・中学生向き】	連絡後調整
理科(実験)	3Dプリンターってなに?(3Dプリンターの仕組み説明と、デモンストレーション)【小学校高学年・中学生向き】	連絡後調整
理科(電気)	電気をためるコンデンサーについて実験します♪ 【小学校高学年向き】	連絡後調整
理科(電気)	太陽光発電でLEDを光らせてみよう【小学校高学年向き】	連絡後調整

【お問い合わせ先】

山梨県立産業技術短期大学校 都留キャンパス 教務学生課

〒402-0053 都留市上谷5-7-35

Tel : 0554-43-8911

Fax : 0554-43-8919